令和４年度　第２回米沢市SDGs推進協議会　会議録

１　日　時　　令和４年１０月１２日（水）午後３時～
２　場　所　　庁議室
３　出席委員
　委員　　副市長（会長）、伊藤優子副会長、
　　安孫子幸一委員（代理出席　松本峻輔氏）、有海利至委員、
　　大和田浩子委員、菅野紀生委員、佐々木恵委員、柴田正孝委員、
　　菅井栄委員、田畑広志委員、中川浩一委員、中澤未美子委員、
　　四柳徹也委員　　以上１３名

　　（安部里美委員、伊藤浩志委員、川野敬太郎委員、香坂洋平委員、
　　斎藤美綺委員、曽根伸之委員は欠席）
　アドバイザー　谷中修吾先生
　SDGs推進参与　伊藤夢人（オンライン出席）
　事務局　　企画調整部長、政策企画課　課長、課長補佐、企画調整主査、担当
４　会議録
（１）開会

（２）会長あいさつ（要旨）
会　長　　委員の皆様、久しぶりにお目にかかれた谷中先生、本日もよろしくお願いします。忌憚のないご意見をお願いしたい。

（３）新委員紹介（自己紹介）

（４）谷中先生あいさつ（要旨）
アドバイザー　　SDGsの取組を表彰する国の事業の現場では、昨今、SDGsを普及啓発したいという民間企業からの取組が増えており、地域における取組としても浸透してきている印象がある。米沢の中でも民間側の取組を拾い上げていくと、米沢市のSDGsの打ち出し方に関するヒントになると思う。今後も国の動きについて情報提供していきたい。

（５）議事（要旨）
（設置要綱第７条により、会長が議長となり進行）
会　長　　それでは議事に入る。議事の円滑な運営にご協力をお願いしたい。

事務局　（（１）「令和４年度SDGs推進事業について」①今年度の実施報告及び予定について資料１、別紙１、２に基づいて説明）
参　与　（企業によるSDGsの見える化の取組ついてスライド資料により説明）

谷中先生の講座もあり、米沢市でSDGsを推進している企業が増えていて素晴らしいことだと思っている。今後は2030年以降も続くであろう経済・社会・環境の調和社会に向けてどう取り組むか、情報開示の部分も今から整えておく必要がある。細かい部分を今後の議論で具体化していきたい。

委　員　会社の環境月間で河川のごみ拾いに取り組んだ際に、社員から意欲的な意見が聞けたが、次は何を提案してよいか分からない状況にあった。伊藤参与からの情報開示の中に良いヒントがあったので、企業や学校にヒントを提案する機会があればいいと思うが、今後そのような計画はあるか。

事務局　具体的には決まっていないが、企業の情報開示の基準を作り、皆様が参加できるような形を作っていければと思う。

委　員　SDGsプロジェクトのプロモーション技法研修は、ほとんどの方が自主的に参加されているが、どんな分野の方が多かったのか。また、高校生チャレンジについて、動画配信などで中学生が高校生の発表を見る機会があれば大変勉強になると思うのだが、今後そのような予定はあるか。

事務局　研修は様々な分野の方に参加していただいたが、温泉関係の方が特に多かった。昨年度までの研修はSDGsの普及啓発に重きを置いていたが、今回の研修は、企業・団体の皆様が具体的にどう発信していくか、実際の作業の部分に繋がっていて、一歩進んだ形の研修だったと感じている。

高校生チャレンジについては、動画を録画し参加した各高校へ配布する予定としている。中学校に対して動画の公開を行って良いかについても、前向きに進めていきたい。

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　民間企業がSDGsで具体的に何をすべきかを探りたいというニーズが顕在化していると感じている。一般的に、民間企業ではSDGsの１７個の目標群については概ね理解されているが、１６９個のターゲット目標については蓋を開けたことがない方がほとんど。研修では、SDGsの全体像を理解した上で、SDGsアクションを発信する技法の習得をテーマとしている。

民間企業がSDGsアクションを発信して、世間に認知してもらうことで何を実現化したいのかを明確化すると、３つの目的に大別できる。１つ目は、サステナビリティの世界を体現したいという理念の実現。２つ目が、SDGsを実践しているという企業ブランディング。３つ目が、商品・サービスの販売促進。本質を踏まえた研修を実践して、米沢SDGsの発信に貢献したい。

委　員　高校生チャレンジの今後について、大学生チャレンジなどと拡大していく計画はあるか。

事務局　高校生チャレンジについては、今の高校生がSDGsに熱心に取り組んでいるという情報をいただき、それを発表する機会が必要ではないかと考え、今年度からこの取組を始めた。１１月７日に正式な議場で発表会を行い、状況を見て今後どのように展開していくか考えているところ。

大学生も様々な取組をされていると思うので、どのような取組をされているか確認し今後の展開を検討したい。

事 務 局　（②市広報における特集ページの掲載について資料 2、別紙 3 に基づいて説明）

委　　員　保存版の取組について、保存して次に見る機会というのはどういうところを狙っているのか。

事 務 局　SDGs という言葉を耳にする機会が沢山ある中で、自分に何ができるのかを改めて考えた時に見返し、行動指針のようなものになればと考えている。

委　　員　市のホームページからは SDGs に関する言葉が見えず、「地域循環共生圏」と「SDGs 未来都市」に採択されているならば、トップページに SDGs への取組が掲載されている必要があるのではないか。広報誌のような紙媒体だけではなく、ウェブで発信していくという側面も必要ではないか。

事 務 局　トップページの左上の画面が数秒ずつスライドする箇所に、「わたしのなせばなる」を募集している。ウェブへの掲載については、市のホームページはなかなか制約が多いが、ウェブでの展開についても十分進めたいと考えている。

委　　員　広報 12/1 号②保存版に、ホームページに繋がるＱＲコードが載るようだが、広報 12/1 号が出る頃には、このホームページは更新されているのか。

事 務 局　早めに取り組みたい。市のホームページには、SDGs の取組を掲載しているのでリンクを貼りたいと考えている。

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　米沢市のウェブで SDGs 情報を探すのは、確かに大変だと思われる。米沢市は内閣府「SDGs 未来都市」と環境省「地域循環共生圏」の両事業を採択されており、しかも「地域循環共生圏」を２年連続で採択されているのは、全国的にみても名誉なこと。もっとブランディングして発信してもよいと思う。

委　　員　市民や、個人、小さい事業者がほとんどの地域である米沢で、ＳＤＧｓ推進の取組を自分から発信するのはなかなか難しいと思う。顕彰制度ではないが、そういう方たちの取組をピックアップするシステムがあればよいと思う。ホームページに掲載している「わたしのなせばなる」で表示しているように、高校生の発表でもＳＤＧｓ１７の目標に紐づけをして欲しい。

事 務 局　事務局にて整理し、今後の推進に向けて具体化させていただきたい。

委　　員（代理）　SDGs 推進協議会の体制、先駆的な取組を含めすばらしいと思っている。私自身が担当として進めている分野においても、SDGs の流れを十分に加味して、取り組んでいく必要があると改めて感じた。

委　　員　地域企業としてどう取り組むかについては様々な局面があり、大企業にとっては ISO の時代からやらざるを得ない状況があった。市内企業でも比較的環境負荷が大きい企業は躍起になって取り組んでいる。ただ、それ以外の企業がそこに気付けるには、企業理念として持ってもらう等、地域に支持され、供給するサービスやものを受け入れられなければというような啓発を息長く続けていくしかないのではと思う。地域の学生や個人レベルで地道に取り組んでいかなければ、企業も変わっていかないと思う。2030 年以降どういう流れになるのかお分かりなら、谷中先生にご教示をいただきたい。

委　　員　（委員所属団体での取組について紹介。）様々な取組を実施しており、SDGs に直接結びつくわけではないものもあるが、結果的には SDGs に繋がればと思

い、これからも出来ることで貢献していきたい。

委　　員　（委員所属団体での取組について紹介。）将来的に SDGs の中で、その先の未来を見せられるような取組に繋がっていければ理想的だと思い、取組を続けるとともに、今後もそういった活動を発信する機会に取り組んで参りたい。

副 会 長　私たちの一番大きな役割としては情報発信であると思っており、現在も「1.5 度の約束」というキャンペーンを行っていて、毎日のように放送もしている。「高校生のチャレンジ」についても、放送などできれば、中学生のみならず市民の皆さんにご覧いただけるのではないか。広報の保存版の方でも、実写版的な、動画的なものを制作し、放送させていただけたら、情報発信のお役に立てるのではと思う。

参　　与　2030 年以降については、国連の中で、2025・6 年頃から 2030 年以降の議論が出てくると思われ、達成できなければ延長という形が考えられる。力学的に何かが変われば、何も採択されないという可能性もあるのではないか。

その一方で強調したいのが、SDGs は辞書的に使った方がいいという意見。経済、社会、環境の調和というところをしっかりやっていくことが、2030 年以降、SDGs がどうなろうとも、選ばれる自治体・企業になってくる。自治体としては、誰にでも居心地のいい場所、多様性のある場所、人の集まる拠点があちこちにある、というところが魅力的だと言われるような世界観になると思う。米沢市には、世界的な企業になれるポテンシャルを持つ企業がたくさんあると思う。情報開示をし、世界に出ていくときに、2030 年以降に通じるサステナビリティの観点から強みを情報発信できる企業が選ばれるのではないか。SDGs も重要だが、広くサステナビリティというトレンドに合わせて議論をしていくことが重要ではないか。

（６）その他（要旨）

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　SDGs が 2030 年以降どうなるかは誰にも分からないが、過去の歴史から見ると、社会的にサステナビリティを推進してもそれを守らない人も必ずいるという実情を踏まえることも重要であると思う。サステナビリティに反する動きを制する上で強いパワーになるのは、経済的な抑止力。この会社のこの商品はサステナビリティに反するので購入しないというように、各地域の住民が選別した行動を起こすようになると、経済的なインパクトが生まれる。利益重視で資源を青田刈りしてきたような企業は生き残れないとなれば、それが一番強いブレーキになる。

そうなると、企業は経営理念に立ち戻って再構築せざるを得なくなる。企業活動とは経営理念の具現化であるため、サステナビリティが経営理念にインストールされている必要がある。その根源が変わらなければ、形を変えた SDGs を展開しても本質的な行動様式は変わらない。ゆえに、今は極めて重要な時代の転換期であって、本質的な変化が試されていると思う。

一方で、目の前の取組から楽しく行動を変えていくという視点も大切にしたいと思っている。そこで、現在進行中の研修では、米沢市の企業の皆様から、

大変ユニークな SDGs アウトプットが出ているという話をお伝えしたい。研修では、SDGs と言う前に、各自が何をやってみたいかというワクワク感からスタートして、コンセプトづくりとコンテンツ化を行っている。参加者の皆様には、自由な発想で突き抜けたアイデアを考えてもらっている。

（研修参加者の発表例をスライドにて紹介）

本日は、オンラインプレスリリースという切り口で、デジタルの力を使って発信する技法に関する実習を行う。自社メディアと SNS をミックスさせ、日本全国および世界に向けて戦略的に発信することができる。

また、11 月に予定している SDGs カンファレンスは、事前と事後の発信を通じて「東北の SDGs といえば米沢」というポジションをデジタル上で作ってしまうというマーケティングの試み。そうすると、東北で SDGs のプラットフォームづくりを推進している自治体を検索したときに必ず米沢市が上に表示されるようになる。関連して、米沢市の学校、企業、様々な団体がリンクして上に来る、という状態を作り上げる。ただし、小手先の話ではなく、SDGs の本質、歴史的経緯、発信する目的など、SDGs の全体像を踏まえた発信になるように強く意識している。

（８）　閉会

以上